

令和2年度学校自己評価システムシート（山村学園高等学校）

目指す学校像	建学の精神「自立した個人の育成」を踏まえ、「質実・英知・愛敬」の校訓を具現化するとともに、新しい価値を創造する人材を育成する。
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> どのような力を生徒に育成するのかを明確にし、教育活動を見直していく。 生徒の学習意欲や進路意識を高め、進路実現を図る。 安心で安全な教育環境を整え、規律ある学校づくりを推進する。 保護者(後援会)・同窓会・地域と連携を密にして、開かれた学校づくりを推進する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者・第三者評価実施日とは、最終回の学校関係者・第三者評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	第三者委員	6名
	事務局(教職員)	6名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学校関係者・第三者評価			
令和2年度目標					令和2年度評価(令和3年4月1日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日 令和3年4月1日
								学校関係者・第三者からの意見・要望・評価等
1	本校は、大学入試改革への対応、新教育課程の編成、アクティブラーニング・ICT活用による授業改善、グローバル人材の育成に取り組んでいる。特に今年度は、4つのクラスをより明確化した、コース・クラスの再編整備や新教育課程の編成が課題である。	<ol style="list-style-type: none"> コース・クラスの再編整備 新教育課程の編成 グローバル人材の育成 	<ol style="list-style-type: none"> 将来構想検討委員会を中心に新コース・クラス編成(令和4年実施)について、期限を決めて完成させる(2学期)。 新コース・クラスの編成と並行し、3学期終了時まで、4つのクラスの特徴を明確にした新教育課程を編成する(3学期)。 従来のグローバル教育(エンパワーメントプログラム、NZ短期留学、オンライン英検・英会話)に加え、TGG訪問、海外研修旅行事前研修を実施する(通年)。 	<ol style="list-style-type: none"> 校務運営委員会及び職員会議で検討し、期日までに完成できたか。 教務部を中心に編成作業を行い期日までに完成できたか。 海外研修旅行の事前研修、現地調査・交流、事後研修を一体化した指導ができたか。 	<ol style="list-style-type: none"> 新コース案について校務運営委員会で4回審議し、職員会議に提案(11/5)した。その後コース名を公募し職員会議で決定した(2/4)。 新コース実施計画に基づき、教育課程を編成する(2月末) 海外研修旅行は中止。グローバル教育を「総合的な探究の時間」で実施する。TGG訪問は1年の特進コースで実施する(3/17)。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○新コース実施計画に基づき、各検討項目について期限を決め、具体的に進めていく。 ○コロナ禍の中、従来実施してきたグローバル教育を見直し改善し、新しい形のインターナショナルプログラムを構築することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大学入試制度の変革等課題は多数あるが、変革の先取りをして教育活動に活かしてほしい ○海外研修旅行はオンラインの活用が大事である。 ○新コース実施計画の完成は、本学の根幹に関わる重要なことである。期限通り進捗して欲しい。 ○今後も社会環境の変化に対応したレベルの高いグローバル人材の育成をお願いしたい。
2	入学時より確かな学力を身に付けるため、計画的・体系的な指導をコース・クラスごとに行い、生徒の進路実現を目指している。また生徒所有のタブレットに導入している学習支援ソフトを有効活用し、自立して学習できる教育環境の整備に力を注いでいる。さらに今年度は、100周年記念行事の一環として各教室にプロジェクターの設置とWi-Fi環境の整備を行う。例年行っている教員の授業力向上への取り組み、授業時数の確保、生徒の学習時間を増やす取組等も課題である。	<ol style="list-style-type: none"> 学習指導の充実 学習習慣の確立と学習時間の増加 主体的・自主的な進路選択力の育成 教員の資質向上への取り組み 	<ol style="list-style-type: none"> 教科指導・授業改善への取り組み、コロナ禍でのオンライン授業の実施を通じて、生徒の学力を維持・向上させる。また、SGゼミの3年間の総括と今後の目標値の検討をする(1学期)。 コロナ禍でオンラインSHRを実施し、Webドリルや小テストを配信する(1学期)。担任がクラスシーを有効活用し、日々の学習記録の確認を積極的に行い、学習時間を増加させる(通年)。 本校が発行している「進路情報の手引きとデータ編」を計画的に活用し、HRを中心に発達段階に応じた進路指導を実施する(通年)。特進コース対象の課題研究を推進する(通年)。 授業評価アンケート(9月)、学校満足度調査(12月)の結果を踏まえ授業改善に取り組む。またAED講習会(6月)やハラスメント講習会(10月)を実施し、教員の資質向上に努めている。 	<ol style="list-style-type: none"> 教員によるオリジナル動画の配信、Zoomを使用したSHRが実施されたか。SGゼミの総括ができたか。 臨時休校中に、生徒の学習意欲や生活リズムが維持できたか。昨年度と比較して、家庭での学習時間が増えたか。 国立公立大学20人、早慶上理15人、GMARCH50人、成成明國武+日東駒専120人の合格延べ数が達成できたか。課題研究がより推進されたか。 アンケートや調査の結果を前年度と比較し、改善がなされたか。 	<ol style="list-style-type: none"> 教員が作成した「オリジナル動画」をYouTubeで配信し(536本・4月中旬)、Zoomによる朝のSHRを開始(5月)した。 教科毎の確認テスト配信、臨時休校時の家庭学習時間割の作成等、学力の維持向上に努めた(4,5月)。学習時間は、コロナ禍のため例年と比較できない。 国立公立大学17人、早慶上理7人、GMARCH28人、成成明國武+日東駒専129人の合格数である。 授業評価アンケートでは、「話し方」「説明」「学習効果」での得点が上がり、学校平均点が前年度を上回った。(82.8点→84.3点) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度の実績を踏まえ臨時休校時専用の時間割を作成し、双方向型授業を実施していくことが課題である。 ○進路実績については、目標値を達成できなかった。進路指導部を中心に対策を講じることが課題である。 ○教員の授業力をより向上させるため、授業評価項目の見直し検討が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多種多様な生徒の現状をしっかりと把握し指導できる教師力、そして生徒の限りなき可能性を引き出すことができる先生方の教育力に期待している。 ○動画の作成と配信は大変だったと思いますが、コロナが終息しても有用なツールになると思う。 ○コロナ禍の中で、授業評価アンケートの学校平均点が前年より向上したことは大変すばらしい成果である。 ○多様な目的を持った生徒の希望にあわせた進路指導が行われていて効果が出ているが、進路実績に関しては一層の努力が必要である。 ○ICTに関しても効果的な教育環境の整備が行われている。今後もICTによる情報の共有化・効率化等を中心に、オンライン教育の向上に大いに期待している。
3	ほとんどの生徒が学校のルールを守り、良好な生活態度で学習・部活動・学校行事等に意欲的に取り組み、規律ある学校生活を送っている。特に1年生は、在学中に成人となることから、主体的に判断・行動し、他者と協同しながら、自ら安心・安全な学校づくりを推進できる力を育成していくことが課題である。	<ol style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 不登校生徒の減少 部活動・生徒会活動・学校行事の充実 成人教育の実施 	<ol style="list-style-type: none"> 風紀委員会主導による、教育環境の整備を実施する(通年)。 学校カウンセラーとの相談や担任との個別面談を通じて、生徒の実態把握に努める(通年)。 主体性や社会性を育む観点から、部活動・生徒会活動・学校行事をさらに活性化させる。体育祭や文化祭も生徒が主体となり実施できるように支援していく(通年)。 指導要録等の各種様式の変更等についての指導方法を検討する。各学期の終わりに校長講話を行い、生徒の意識を喚起する(2,3学期)。 	<ol style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に貴重品の監理等ができるようになったか。 相談件数が増え、不登校の生徒数が減少しているか。 生徒会主催の学校行事で、主体的な意見交換や活動が見られたか。部活動の実績が前年度を上回ったか。 教務部を中心に指導方法の検討が始まったか。校長講話で生徒の意識が変わったか。 	<ol style="list-style-type: none"> 風紀委員会を開催し(2学期2回)標語を作り、貴重品の管理に努めた。 休校中や学校再開時にアンケートを実施し、心身の状況把握に努めた。カウンセラーのとの電話相談数が6倍に増えた。 コロナ禍の中、オンライン文化祭及びリモート形式の送別会を実施した。より生徒の主体性が発揮され、新しい形式の学校行事となった。 放送による始業式・終業式のため、校長講話は実施しなかったが、成人教育を2学年の集会で実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○不登校傾向にある生徒には、新担任に情報を伝え、担任及び学年との連携が重要である。 ○初めて映像を活用した文化祭・送別会を実施したが、この経験から新しい形式の学校行事を計画していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が主体的に考え行動する能力を身に付けさせることが教育活動の最終目標である。高校教育は生徒の人間力を高める重要な時期である。コロナ禍ではあるが、生徒の自主性・自律性の向上のためにも、部活動・生徒会活動・学校行事に工夫を凝らし、さらに充実させていって欲しい。 ○生徒の心のケアが特に大切になってきている。引き続き生徒に寄り添う教育の環境整備に努めてほしい。
4	開かれた学校を目指し、地域や保護者との連携を密にし、学校からの情報発信を積極的に推進している。今後もさらに中学校・塾や地域との連携を深め、教育実践や教育活動についての広報活動を推進し、生徒募集に繋げていくことが課題である。	<ol style="list-style-type: none"> 信頼にこたえる開かれた学校づくり 情報発信と生徒募集の強化 	<ol style="list-style-type: none"> HPを一新し、学校の最新情報を発信し続ける。特に開かれた学校づくりが生徒募集につながるようにHPを工夫・改善していく(通年)。 学校案内・生徒募集要項の作成に加え、「SA教育改革」「教育動画配信」の2つのチラシを作成し募集を強化する。また個別相談会終了ごとに例年の相談数との比較を教職員に提示し、今後の目標数を示していく(通年)。 	<ol style="list-style-type: none"> HPが見やすくなり、学校説明会・個別相談会の予約が取りやすくなったか。アクセス数も昨年度より増えたか。 学校案内の刷新、チラシの作成、目標とする相談件数の提示で、募集定員400名を超える結果が出たか。 	<ol style="list-style-type: none"> 塾主催の相談会の中止により、学校説明会・個別相談会の予約が毎回短時間で定員に達した。アクセス数も増加した(前年度比150%) 校長から個別相談終了ごとに今後の目標件数を提示し、教員の意識を高めた。その結果募集は400名に達した 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○HPのデザインを刷新し、生徒募集に繋げていく。 ○次年度もコロナ禍の状況を考えて、計画的に学校案内・チラシ等を作成し、生徒募集を強化していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍で、保護者・同窓会・地域との情報連携を強化するためには、HPによる情報発信が効果的である。引き続き状況に応じた情報発信をお願いしたい。 ○今現在本学で学んでいる生徒やその家族からの口コミによる発信が意外と大切である。 ○双方向のコミュニケーションが取れるようなHPを検討して頂きたい。